

南陽市自分ごと化会議
第2回会議 議事概要

日時	2023年8月20日(日)13時30分～16時30分
場所	シェルターなんようホール 展示ギャラリー
コーディネーター	神奈川県逗子市 福祉部長 石井 聡

第2回会議の振り返り

➤ 学校生活に関すること

- ・下校が遅くなることもあるためスクールバスに乗せてほしい。
- ・自転車通学を認めてほしい。(熱中症対策)
- ・少人数学級のメリットは、生徒一人一人に目が届く、活躍の場が増える、異学年との交流の機会が増えるなどがある。
- ・一方、デメリットとして多様な考えに触れることができない、学び合いの経験の不足、チームスポーツなど人数が必要なことができないことなどが挙げられる。
- ・子どもの周囲を取り巻く環境が変化している。(ICTや核家族化など)
- ・子どもがしたいことを我慢させたくない。
- ・本当に部活を地域移行できるのか。(吹奏楽部の例)
- ・学級数は減っているのか。

➤ 学校の運営に関すること

- ・教員の定数は満たしているものの、休業者のかわりが見つからないことがある。
- ・南陽市の教育の特徴の一つである「地域総合型教育」のポイントの一つは保育園(幼稚園)から中学校までつながりを大事にした教育を行っていること。
- ・若い世代が南陽市に残る可能性を高めるため、地元の企業や産業を知る機会を増やしてほしい。
- ・市内の中学校では、高校や大学の見学、職場体験や職業人講話など、なるべく本物に触れる機会の創出を図っている。

➤ 学校の施設に関すること

- ・施設の複合化や転用について。
- ・空き教室の利用について(全く使われていない物置状態になっているような教室はない)
- ・同規模の近隣自治体の中学校は1校体制になっている。
- ・3校のうち2校は築40年が経過。修繕には毎年約1億円かかっている。
- ・建て替えか大規模改修(+30年使えるようにする)か。大規模改修を行ったあとに廃校になる事例も。
- ・建て替えの場合、生徒数や学級数に応じて教室を作るため、フリーに使える教室の設置は難しい。
- ・市内で廃校になった学校は指定避難所や教育資料の保管場所として使われている。
- ・令和4年度のトイレの洋式化率は平均72%となっている。

➤ その他意見

- ・子どもの数が減ると地域の行事も成り立たなくなる。特に中学生は重要な戦力。
- ・南陽市には陸上の大会で使うのと同じグラウンドがない。
- ・気温が高い日が続き、プールに入ることができない日が多発している。
- ・小学校も高校もあるのに中学校だけスキーの授業がない。スノーボードの選択肢もない。
- ・雪国でしかできないスキーの授業に賛成の意見がある一方で、負担を考えると必要ではないのでは。